

第24回水シンポジウム2019 in しが
マザーレイク～森・川・里・湖のつながりの再生を目指して～

第1分科会

**滋賀から発信するしなやかで
強靱な流域治水のあり方**

ピアザ淡海・ピアザホール

2019年8月22日（木）13:15-14:55

第1分科会のテーマ・目的

テーマ『**滋賀から発信するしなやかで強靱な
流域治水のあり方**』

目的

近年の気象現象、豪雨の発生状況等について理解を深め、“水の威力”からの減災を図るために、行政、地域住民・メディア、研究者などのそれぞれの立場から**水害に強い地域づくりに向けた方策を探る**。命を守ることを第一とする視点を共有し、優れた地域防災力を有する**“しなやかで強靱な”流域治水のあり方について議論・提言**する。

なぜ滋賀でこのようなテーマを 考えるのか？

■ 災害に対するレジリエンス

『想定を超える極端現象に遭遇してもできるだけ平常の営みを損なわない、また仮に被害が避けられない場合でもそれを極力抑え、さらには被害を乗り越え復活する力』

（日本学術会議提言（平成26年9月22日）「災害に対するレジリエンスの向上に向けて」より抜粋）

■ 滋賀の流域治水

＝しなやかで強靱（レジリエンス）
発信すべき先進性

第1分科会パネリストのご紹介

■ 学識関係者

瀧健太郎（滋賀県立大学准教授／流域政策・計画）

里深好文（立命館大学教授／河川工学）

大沢昌玄（日本大学理工学部教授／都市計画・立地適正化）

■ 行政関係者

村口智一（米原市都市計画課／入江干拓・建築基準）

岸田孝史（滋賀県土木交通部流域政策局長／河川管理者）

■ 地域・メディア関係者

大山武人（NHK大津放送局アナウンサー／報道）

真鍋政彦（日経コンストラクション副編集長／災害・治水関連の取材）

安田清明（東近江市葛巻区前防災部会長／地域防災組織）

コーディネータ：杉原裕司（九州大学教授／土木学会水工学委員会基礎水理部会）

土木学会 水工学委員会

<http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/>

土木学会の調査研究委員会の一つで、河川や水資源に関する工学とそれらに関連する諸課題の調査・研究それらの推進・情報共有を図ることを目的として活動しています。

■ 専門分野別 4 部会での研究・調査活動

水文部会、基礎水理部会、環境水理部会、河川部会

■ 分野横断的な小委員会活動

水害対策小委員会、ISO/TC113小委員会、流量観測技術高度化研究小委員会、グローバル気候変動研究推進小委員会、河道管理研究小委員会など

■ 水の問題に関する情報発信

水工学に関する書籍や論文集を編集し、水工学講演会、河川技術に関するシンポジウム、水工学に関する夏期研修会等を開催して、最新の水工学に関する知見の情報共有を図っています。

水シンポジウムを各都道府県で開催し、市民・学会・行政・民間が一同に会して水に関する諸問題をともに議論し、相互理解と情報共有を図る機会を提供しています。

第1分科会の進行について

1. 話題提供による問題背景の理解

- 1-1. 学識関係者から「洪水対策・治水計画・水害に強いまちづくり」に関する話題提供
- 1-2. メディア関係者から「災害事例・防災情報・防災教育」に関する話題提供
- 1-3. 行政関係者・地域防災組織関係者から「流域治水条例・土地利用・避難・防災組織の実情と課題」に関する話題提供

2. ディスカッションによる理解の深化

- 2-1. 優れた地域防災力とはどのようなものか？
- 2-2. 防災情報、避難体制、防災組織のあり方、次世代のための防災教育とは？
- 2-3. 会場との質疑応答

3. 滋賀からの発信